

科目名	血液検査学Ⅰ								
英文科目名									
担当教員	濱田悦子、藤本和実								
授業形態	講義								
学年	2 年	クラス	1	開講学期	前期	単位区分	必	単位数	1
ディプロマポリシー	臨床検査技師として必要とされる基本的な知識・技術を修得し、活用できる。								
授業の目的・到達目標	血液は生体の維持にとってきわめて重要な役割を果たしており、その産生部位である骨髄を含めて「造血器」という1つの臓器として扱われている。血液検査は日常診療に必須の基本的検査であり、血液疾患だけでなく様々な疾患の病態解析、診断、治療効果判定、経過観察に欠かすことのできない重要な検査である。血液学の講義では、血液検査学を習得するために必要な基礎として、知識と理解力を身につける。 【授業目的】 1. 血液の成分や性状を理解し、その機能を理解する。 2. 各血球（赤血球・白血球・血小板）の正常形態と機能を習得し、その検査結果を評価する方法を身につける。 3. 止血機構、血液凝固制御機構、線溶制御機構を習得し、これらに関わる因子の検査法と診断における意義を理解する。 4. 疾患の診断や病態の把握における血液検査の意義・重要性を理解する。 5. 血液疾患の診断や経過観察に必要な検査について習得する。 【到達目標】 1. それぞれの血球が、どのように造られどういう機能を持っているかを説明できる。 2. 凝固・線溶系因子の種類と機能を理解し、臨床的意義を説明できる。 3. 貧血の鑑別診断における検査の進め方を説明できる。 4. 白血球の診断における検査の進め方を説明できる。 5. 出血傾向・血栓傾向をきたす主な疾患・病態の鑑別のために必要な検査を説明できる。								
授業概要	1. 血液の基礎(1) : 血液の成分、血液の性状 2. 血液の基礎(2) : 血液の機能、血球の産生と崩壊 3. 血球(1) : 赤血球の産生、形態と機能 4. 血球(2) : 白血球の産生、形態と機能 5. 血球・止血機構 : 血小板の産生、形態と機能、止血機構 6. 凝固・線溶系 : 血液凝固、線維素溶解 7. 赤血球系疾患(1): 基準範囲、形態の異常 8. 赤血球系疾患(2): 貧血(1) 9. 赤血球系疾患(3): 貧血(2) 10.白血球系疾患(1): 基準範囲、形態・機能異常、増加・減少症 11.白血球系疾患(2): 造血器腫瘍(1) 12 白血球系疾患(3): 造血器腫瘍(2) 13.出血性素因(1) : 出血性素因とその検査法、血小板減少・機能異常・増加症 14.出血性素因(2) : 凝固・線溶因子の異常、血管の異常 15.血栓性素因(3) : 血栓症と検査、抗血栓療法								
学習演題 予習・復習	1 回の授業に対する予習・復習時間は合計で 1 時間程度とする。 講義に先立って、教科書の該当項目部分を読んで予習をしておくこと（各回 30 分）。 講義で強調した範囲についてプリントや教科書を熟読し、知識の定着を図ること。 第1～2 回 予習：血液の基礎 教科書 p1～16 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。 第3 回 予習：赤血球 教科書 p17～33 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。 第4 回 予習：白血球 教科書 p33～45 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。 第5 回 予習：血小板・止血機構 教科書 p46～54 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。 第6 回								

	予習：凝固・線溶系 教科書 p55～68 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。 第 7～9 回 予習：赤血球系疾患 教科書 p207～237 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。 第 10～12 回 予習：白血球系疾患 教科書 p238～275 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。 第 13～14 回 予習：出血性素因 教科書 p68～70、p276～292 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。 第 15 回 予習：血栓性素因 教科書 p70～72、p293～294 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。
授業方法	スライドを使い教科書に沿った講義を行う。理解の補助として参考書とプリントを用いる。 授業の中で確認問題を行い、理解度を確認する。 小テストを行い、理解度を評価する。次回の講義で小テストについて内容を解説してフィードバックを行う。 各回の進行度により若干前後することがある。
成績評価 の基準	授業態度と定期試験で総合点 100% (100 点)。追再試の場合は授業態度を含め 60% (60 点) とする。 授業態度不良の場合は 10 点/総合評価 100 点の減点とする。
教科書	ISBN978-4-263-22361-1：最新臨床検査学講座「血液検査学」、奈良信雄ほか、医歯薬出版、2016
参考書	ISBN978-4-89632-652-9：病気が見える vol.5 血液第 2 版、医療情報科学研究所、メディックメディア、2017
実務経験の ある教員に よる授業	
実務経験の 内容	-
実務経験の 当該科目へ の活用	-